

四島^{しま}新つなぐ たなかけ橋

北方四島交流専用船「えとぴりか」
お披露目式・一般公開

領土問題の平和的解決と日本とロシアの相互理解を深めることを目的に、平成4年から始められたビザなし交流も今年で21年目を迎えます。

4月20日、21日に今年度からビザなし交流等に使用される北方四島交流専用船「えとぴりか」のお披露目式と一般公開が根室港琴平町岩壁で行われ、元島民をはじめ返還運動関係者など多くの市民が船のお披露目を祝いました。これからの四島との交流を築いていく新たなかけ橋として「えとぴりか」は、北方四島交流等事業を力強く支えていきます。

北方四島交流専用船「えとぴりか」は、全長66・5メートル、全幅12・8メートル、定員は96人で乗組員12人を除くと84人が乗船可能。航海速度は15ノット、今まで4時間かかっていた根室港から国後島泊湾までを約3時間で渡航。平均年齢78歳と高齢化した元島民と体の不自由な人へ配慮し、船内はバリアフリーとなっており、車いすも利用でき

るように広めに設計された通路や客室に加えて、船の中央にはエレベーターや電動スロープも完備されています。

「えとぴりか」という船名は、領土問題に広く関心を持ってもらおうと昨年全国公募され、応募総数2、469件の中から「ふるさとである北方四島と日本本土を自由に行き来するエトピリカの美しい姿と、ビザ



元島民と返還運動関係者が出席し船のお披露目を祝う



えとびりかの乗り心地のよさを体感した試乗会



バリアフリーの広々とした客室（4人部屋）

に分けて船内見学と試乗会が行われました。試乗会に参加した市民は、船内の充実した設備を見学し「外見よりも船内が広々としている。」「揺れをあまり感じない。最高の乗り心地。」といった感想が聞かれました。24日に試験航海に出港し、

交流事業実施の最終チェックとともにロシア島民へお披露目された「えとびりか」。今後さらなる四島との交流と領土問題の進展に、大きな期待が寄せられます。

なし交流による相互訪問や元島民等の熱い思いにあふれる自由訪問のイメージと重なる」という理由から北方四島交流等事業に使用する船舶にふさわしいとして決定されました。

20日にえとびりか船内で行われたお披露目式には、長谷川市長や元島民をはじめ返還運動関係者約100人が出席し、元島民を代表して千島歯舞諸島居住者連盟の鈴木寛和副理事長から「長年の願いが実現し、とてもうれしい。一日も早い領土問題の解決に結びつくこと

を願っている。」とあいさつした後、長谷川市長から「エトピリカのように四島と何のわだかまりもなく往来できることを願っている。」と、船名の由来にちなんだあいさつとともに、領土問題早期解決を誓いました。

お披露目式の後、船内見学と体験航海が行われ、参加者は横揺れを軽減する減揺装置を導入したえとびりかの乗り心地のよさを体感していました。

翌日の21日に行われた一般公開には、多くの市民が集まり、午前と午後の2回

船舶概要

全長約	66.50m
長さ(垂線間)	60.00m
全幅(型)	12.80m
深さ(型)	6.80/4.30m
計画満載喫水(型)	3.25メートル
総トン数(国内トン数)	約1150トン
主機関	船用ディーゼル機関3000ps 1基
航海速力	15ノット
搭載数人員	乗組員数 12人
	旅客 84人
	計 96人

